

全国から頼まれる「出張洗車」 使う水はバケツ1杯

有料会員記事

佐藤英彬 2021年1月24日 7時00分

凄腕しごとにな



洗車時は車体に傷をつけないよう、スポンジのどの部分をあてるかにも繊細に気を配っている=埼玉県草加市、横関一浩撮影

細野／美装 代表 細野智実さん（30）

トレードマークの青色のつなぎの背中には、タオルを片手に車を磨く自身の姿のイラストをあしらう。大切な愛車に輝きを戻し、ドライバーを笑顔にしたい――。地元の岐阜から東京、はては北海道まで、洗車のために全国各地を飛び回る。この1年で出張した回数は、約260回に上る。

昨年末、埼玉県 内の中古車ショールームで、黒の高級外車の車体に目をこらす姿があった。

「スポンジを育てろ」

「『ここはいいだろう』という思い込みはしない。お客さんが普段は見ないような角度からも、車を見るようにしています」。車の状況を確認してから作業に入ると、汚れも落とす独自開発のワックスを含んだスポンジを、手元でゆっくりと動かしていった。こびりついた汚れは、スポンジの硬い部分で。逆に目立った汚れがなければ、ワック

スがしみこみ、やわらかくなった部分をあてる。使い勝手がよくなるように、しみこませ方などを工夫して「スポンジを育てる」。師匠から教えられた。



ワックスの種類ごとにスポンジも使い分ける=横関一浩撮影

重要なのは力加減だ。汚れがひどいからと力を入れすぎると、仕上がりにムラができる。逆に弱すぎれば、汚れは落ちない。その感覚は、数をこなすことで身につけてきた。ワックスも、車体の色や素材ごとに特徴が異なるものを使い分ける。

リスクも体力も考えて

最初に行う車体の泥などの汚れ落としには、やわらかい綿のタオルと、バケツ1杯分の水しか使わない。

大量の水を使ってごしごしと洗えば、汚れは早く落ちるかもしれないが、車体に傷を付けてしまうリスクをはらむ。重労働になり、女性の体力でコンスタントに洗い続けることも難しくなる。こうした工夫が、1台にたっぷり2～3時間ほどかけながら、多い時は1日5台もの洗車を可能にしている。



狭い部分の汚れを取るため、自作した道具の先端にタオルをくくりつける＝横関一浩撮影

師匠の仕事現場に通いつめた

出張洗車が注目され始めたのは、日本がバブル景気で沸いた1980年代後半ごろ。高級外車が売れて世に出回り始めると、自宅などに出向くサービスが好評を博した。洗車技術を学んだのは、その第一人者である大原基成(もとあき)さん(62)。弟子100人以上の中で、唯一の女性だ。

20代前半で離婚し、2人の子どもを育てる シングルマザー となった。新聞の折り込みチラシの「学歴、年齢不問」と書かれた求人広告に目を引かれ、地元で出張洗車を手がける会社で働き始めた。見違えるようにきれいになった愛車に喜ぶお客さんの姿に、やりがいを感じた。

勤め先の廃業を機に、独立を決意。修業先に選んだのが大原さんだった。約2週間の修業期間が終わっても、大原さんの仕事の現場に足しげく通い、洗車技術を学んだ。誰よりも仕上がりに気を配り、汚れがないかを隅々まで確認する徹底ぶりに、師匠も舌を巻いた。「この人なら」。今や後継者とも目される存在だ。



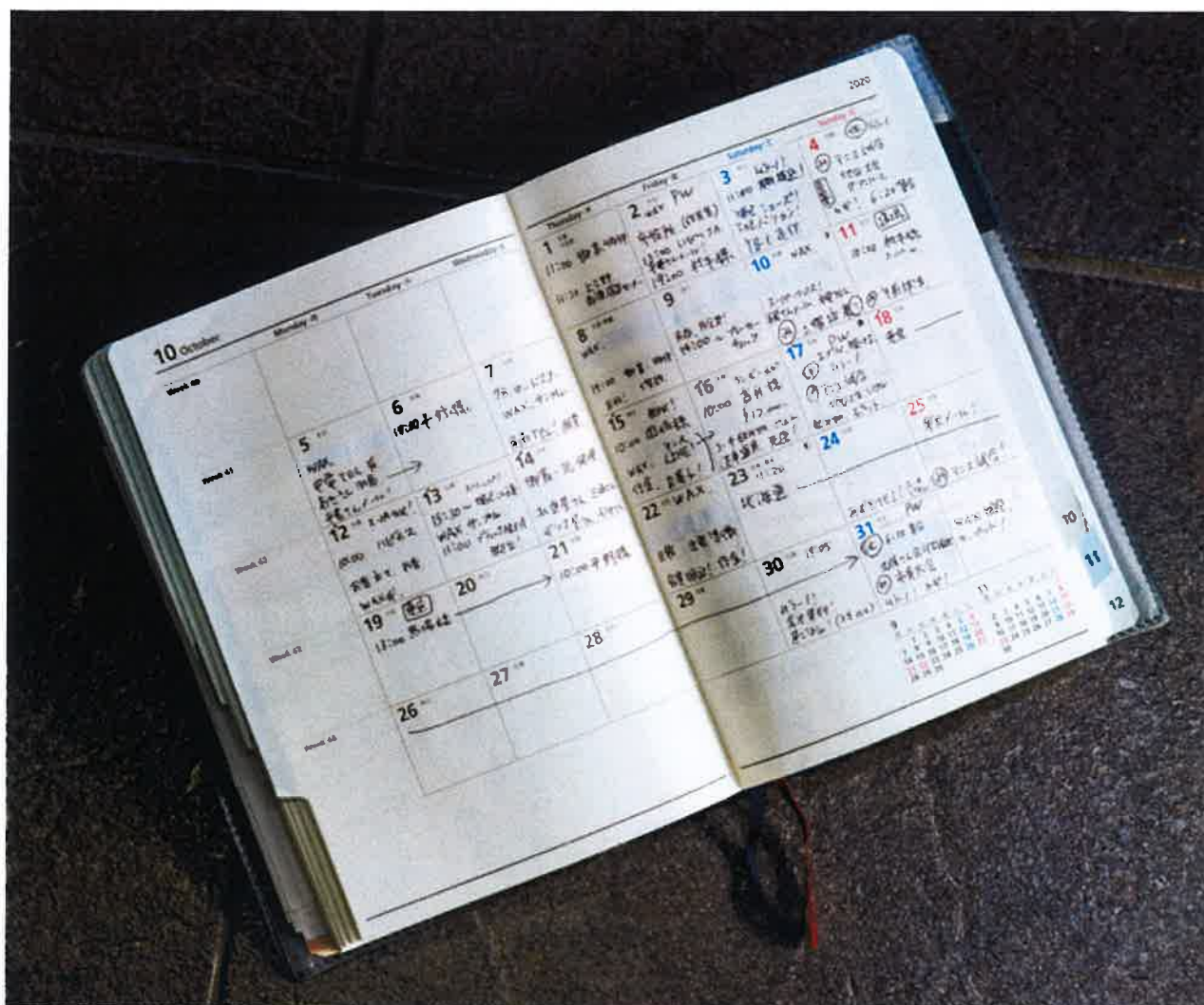
ワックスの種類ごとにタオルも使い分ける。布の繊維が硬くならないよう、使用後はお湯で洗う徹底ぶりだ=横関一浩撮影

きっかけは折り込みチラシ

開業後しばらくは、一日中チラシをまくだけの日もあった。だが、満足した顧客からの車仲間を通じた紹介などで、今や全国各地に常連客がいる。折りたためる携帯型バケツのほか、道具一式を詰め込んだバッグを持参。なるべく車で移動するが、新幹線代や飛行機代は依頼主が負担する。そこまでして来てもらいたい存在である証左だ。

年末などは依頼が殺到し、新規の依頼は断らざるを得ないほど忙しくなることもある。そんな各地を飛び回る日々の支えは、小中学生の2人の子どもの存在だ。

「自分のやりたいことを見つけ、それを夢中でやっていけばいい。意外と、なんとかなるから」。応援してくれる子どもたちに、これからも自分の背中を見せていきたいと思っている。



予定がびっしり詰まった細野さんのスケジュール帳。北海道など遠方への出張は、移動を含め1週間以上になることもある=横関一浩撮影

子どもたちが応援団「背中見せたい」(佐藤英彬)

しなる竹串で道具自作

指が入らないような隙間を掃除する時に活躍するのが自作の道具。竹串を2、3本まとめて紙で巻き、のり付けしたもので、先端にタオルをあてがって隙間に差し込む。しなるため、車を傷つけにくいという。



自作した掃除道具。先端にタオルをくりつけ、指が入らないような狭い部分の汚れを取る=横関一浩撮影

ユーチューブで洗車道場

車の洗い方や仕上げのコツを広く教えたいと、自身の店舗で「洗車道場」と称する講習会を開いている。遠方で足を運べない人のために、師匠の大原さんと協力して、動画配信サイトのユーチューブで情報発信もしている。車種ごとの洗車方法のほか、外装・内装の各部分の汚れの落とし方、バイクや店の窓ガラスを掃除する方法なども実演している。

ほその・ともみ 岐阜県 揖斐川町 出身。中学卒業後、主婦を経て地元の出張洗車専門店で就職。東京都内で学んだ後、2013年に岐阜市で独立した。基本料金は1時間8千円で、車の状態が変わる。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.